

夢を叶えた珠玉のガレージ

愛車と暮らす洗練の家

ガレージとは本来車を取める空間ですが、車好きのかたがたにとっては戀しむ宝物を愛でる場所であり、至福の時間を紡ぐ場所。この度は、住空間に美しく組み込まれた贅沢なガレージにスポットを当てました。

目を見張る独創的な創意工夫の数々、愛車と共に暮らす究極の住いを実現した3軒の家をご紹介します。

撮影／齊藤幹朗（八〇一八七ページ） 小野祐次（八八一九ページ） 取材文／富部志保子（八〇一八七ページ） 安藤葉穂子（八八一九ページ）



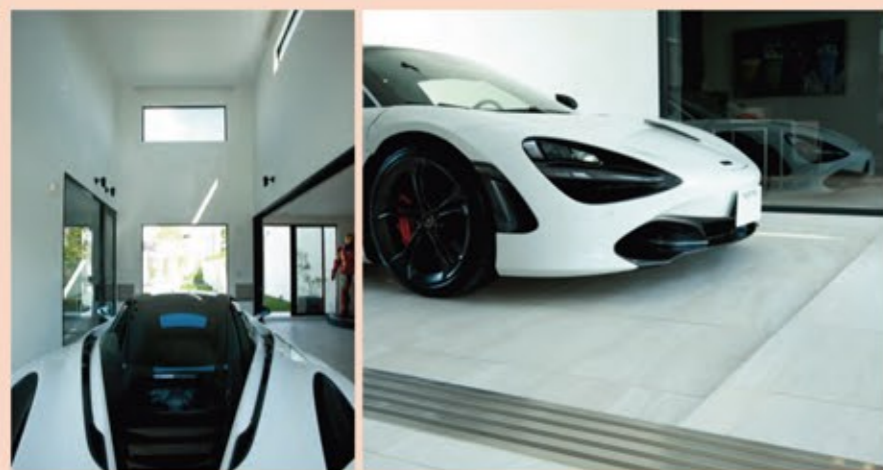
スチールとガラスのルーフが放射状に広がる車寄せは、美術館のよう。複数のスーパーカーを所有する増子さんご夫妻は、日常的に使用する複数の愛車をこの場所に駐車。乗り降りしやすく、外部からも見えにくいので、気に入っているという。設計／アーネストアーキテクト（山中一行）





夜、照明が灯ると、シンプルモダンな住まいの美しさが、より際立つ。ガレージの正面には、建物と同程度の広さを持つ中庭が。趣きある落葉樹が季節感を演出するこの場所にも、ガレージと同色のタイルをセレクト。水場を設けた中庭は、子どもたちの安全な遊び場でもある。

美しいガレージのポイント



2 力強いアイドリングに対応する吹き抜けと換気機能

居室に隣接するからこそ、防音性に配慮し、天井高6mの二層吹き抜けに。さらに壁面の要所には大きな換気扇を設置し、スーパーカーならではの豪快なアイドリングに対応している。そのうえで壁や天井を白で統一、室内との調和を図っている。

1 駐車スペースと室内の床色を揃えて調和を演出

ガラス戸を開くとガレージと一続きとなるホームオフィス。一体感を演出するため、床の段差をなくし、室内外でタイルを同色にした。ただし、ガレージではコンクリートの上に厚さ2cmの特殊タイルを施工するなど、愛車のための配慮が施されている。

「端美な住まいには、増子さんご夫妻の美意識が凝縮されています。特筆すべきが車。所有するのは、世界に九五台しかないという「ランボルギーニ・アヴェンタドールロードスター」をはじめ、「マクラーレン」や「ボルシエ」、「レンジローパー」といったスーパーカーの数々。子どもの送り迎えなどで毎日ボルシエを運転するという奥さまの佳代さんいわく、「日常的に使う車は車寄せに駐車しています。ロータリー風なので、バックせずに停めた状態から

そのまま出られるので、とても便利なんですよ」。

一方、ご主人の秀典さんは常に眺めたい一台を、自身の寝室とホームオフィスの間につくった特別なガレージに駐車。ギャラリィのようなガレージで、日中は窓からの日差し、夜はスポットライトがボディを際立たせ、愛でる心を満たします。「まるで一つの部屋のように、室内との一体感がある点が気に入っています」と秀典さん。直線美を生かした住まいに愛車が美しく組み込まれた増子邸です。



上・秀典さんのプライベートエリアに設置されたガレージ。この日停まっていたのは、マクラーレン720S。寝室のカーテンを開ければ、いつでも愛車を眺めることができる。また、ガレージの奥にあるホームオフィスのガラス戸を開ければ、ガレージと一続きの空間に。オンタイムとオフタイムの両方で愛車との時間を楽しめるのが魅力。下・ともにシンプルモダンなインテリアが好きだというご夫妻。リビングダイニングの家具はミノッティ。キッチンハウスのキッチンも、幅や高さなどすべて佳代さんに合わせたオーグーメイド。住まい全体がスタイリッシュに統一されている。

「愛でる派」と「快適主義」。
車好き夫妻の美しき住まい

茨城県 増子邸